

## なぜこう訳されているのか(2)村上春樹を英語で読む(2-2)

著者	塩? 久雄
雑誌名	神戸山手大学紀要
号	15
ページ	107-145
発行年	2013-12-20
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1084/00000669/">http://id.nii.ac.jp/1084/00000669/</a>

# なぜこう訳されているのか（２）

## ——村上春樹を英語で読む（２－２）——

### Haruki Murakami in English 2-2

塩 濱 久 雄

キーワード：英語、日本語、翻訳

#### 序

本稿は、塩濱久雄「なぜこう訳されているのか（１）」（2012）の続編である。前稿同様、英語がネイティブ言語で、学習して日本語を獲得した人が、日本語の小説を英訳すると、どのようなことが起こるのかを調査したものである。砕けた言い方をすれば、英語頭の人、どのように日本語を読んで、英訳しているのだろう、ということである。

本稿のもととなる資料は、基本的に一人の日本人作家の作品の日本語と、ほぼ一人の翻訳者によるその英訳である。そこで以下の分析はあくまで傾向と捉えていただきたい。いくつかの項においては例外と思われる訳や、異なる訳者による異なる訳を併記した。

本稿で引用される例は、村上春樹の作品とその英訳からのものであるが、本稿では、引用元が示されている場合以外は、『1Q84』からのものである。

#### 第一章

##### 英語は眼前の状況を、直前の過程を推測して言語化しない（２）

##### 0. はじめに

筆者は「塩濱（2012）」において、「英語は眼前の状況を、直前の過程を推測して言語化しない」と指摘した。例えば、目の前にある（自分が飲んだものではない）50パーセントほど水の入ったグラスを見て、日本語では「半分（水が）残っている」などと言える。しかし、同じ状況で英語では half left とは言わない、ということである。「残っている（left）」と言うのは、そのグラスにはもともと水がいっぱい入っていて、誰かがその一部を飲んで「残している」のであろうと推測しているからである。英語では half empty または half full で、目の前の状況だけを描写している。

本章では、その筆者の考えを補強する例を追加、検討する。

村上春樹『1Q84』の世界では、月の数が二つに増えるということが起こる。そこで、「月が増えている」などといった表現が多く出てくる。それらを含めて、以下、(1)『『増える』について』(2)『『来た』が came と訳されていない場合』(3)『『戻って』などが returned などと訳されていない場合』(4)『『残した』などが left と訳されていない場合』(5)『『させている』『されていた』などが使役構文や受動態で訳されていない場合』(6)『『読みかけの本』』に分けて、例文を列挙する。該当部分のみ英訳を付している場合がある。

## 1. 「増える」について

①「増える」が increase と訳されていない場合。

(2) は「月」ではなく「鉛筆」であるが、ともに眼前の状況の描写である。

(1) そして彼の前にはやはり月が浮かんでいる。ただその数は二つに増えている。(2-429)

The moon was hanging there again, but this time there were two moons, not one.

「その数は二つに増えている」が there were two moons, not one (月が一つではなく二つある) と訳されている。なお、②の(4)と比較。

(2) 天吾が部屋に戻ると、ふかえりは天吾の仕事机の前に座り、小さなポケットナイフを使って熱心に鉛筆を削っていた。天吾はいつも十本ばかりの鉛筆を鉛筆立てに入れているのだが、その数は今では二十本ほどに増えていた。(2-445)

Tengo always kept ten pencils in his pencil holder, but now there were at least twenty.

「二十本ほどに増えていた」が there were at least twenty (少なくとも二十本あった) と訳されている。

②「増える」が increase と訳されている場合。

以下の例は、「眼前に二つの月を見て」のものではない。そこで、「増える」は increase と訳される。

(1) 画家の家に引き取られた翌日、部屋の窓から空を見上げ、月が二個に増えていることを少女は発見する。(2-414)

The day after she is taken into the painter's home, the girl looks at the sky from her room and discovers that the number of moons up there has increased to two.

(2)「月の数が増えていた」と天吾はグラスを手の中でゆっくりとまわしながら、打ち明けるように言った。(2-452)

“The number of moons increased,” Tengo said, as if sharing a secret, slowly turning the wineglass in his hand.

(3) 月の数が増加したことについて、ふかえりはとくに感想を口にしなかった。その知らせを聞いて、彼女が驚いたという印象は見受けられなかった。(2-452)

Fuka-Eri had nothing to say regarding the fact that the number of moons had increased, nor could Tengo discern any sense of surprise at the news.

(4) ひとつだけ間違いなく言えることがある。これはもともと俺のいた世界ではない。俺の知っている地球はひとつしか衛星を持たない。疑いの余地のない事実だ。それが今では二つに増えている。(3-397)

There's one thing I can say for sure, he decided. This isn't the world I came from. The earth I know has only one moon. That is an undeniable fact. And now it has increased to two.

この部分だけを読むと、「二つに増えている」は「眼前の出来事の描写」に思えるが、この三段落前に次の部分がある。①の(1)と比較。

「やがて牛河は息を呑んだ。そのまましばらく呼吸することさえ忘れてしまった。雲が切れたとき、そのいつもの月から少し離れたところに、もうひとつの月が浮かんでいることに気づいたからだ。それは昔ながらの月よりはずっと小さく、苔が生えたような緑色で、かたちはいびつだった。でも間違いなく月だ。そんな大きな星はどこにも存在しない。人工衛星でもない。それはひとつの場所にじっと留まっている」(3-396)

## 2. 「来た」が came と訳されない場合。

①上の1. ①と同様、「やってきて」眼前にいる場合には、「眼前の出来事の描写」なので be (いる) と英訳されている。

「どうして先生はこんなところに来たんですか？」と天吾は尋ねた。(1-323)

“Why are you here?” he asked the teacher.

③また、「やってきた」がその場面でのその人物の服装などとともに描写されている場合は、came で訳されない。「ある服装で眼前にいる」からである。そこで次例(2)では showed up (現れる) が用いられている。比較のため、単に「やってきた」となっていて、came と訳されている例を付す。

(1) 彼女は先週、白いブラウスに白いスリッパというかっこうでやってきた。(1-312)  
She showed up the following week wearing a white blouse over a white slip.

(比較例)

金曜日にガールフレンドがいつもどおり彼の部屋にやってきた。(1-544)  
On Friday Tengo's girlfriend came for her regular visit.

以下類例を挙げる。

(2) 十分ばかり後に担当の医師が、タオルで手を拭きながらやってきた。(2-475)  
Ten minutes later, his father's doctor appeared, drying his hands with a towel.

(3) ぴったり二時半に黒い背広を着た葬儀社の担当者が、密やかな足取りでやってきた。(3-435)  
At precisely two thirty the funeral director arrived, dressed in a black suit. He moved silently.

ただし、次例のように、服装が、文を改めて描写されている場合は、came で訳される。

(4) 七時十五分に小松はやってきた。ツイードの上着にカンミアの薄手のセーター、やはりカンミアのマフラー、ウールのズボンにスエードの靴。いつもと同じなりだ。(3-296)  
Komatsu came at seven fifteen. He had on a tweed jacket, a light cashmere sweater, a cashmere muffler, wool trousers, and suede shoes. His usual outfit.

次例の場合、原文では服装が、文を改めて描写されているが、英訳ではまとめて訳されているので、showed up が用いられている。

(5) 十分後にふかえりがやってきた。彼女は両手にスーパーマーケットのビニール袋を抱えていた。(2-209)  
Fuka-Eri showed up ten minutes later with a plastic supermarket bag in each arm.

### 3. 「戻って」が return などと訳出されていない例。

次の(1)の場合、「戻る」が returned と訳されているが、これは青豆の表情の変化に関する説明である。

(1) 顔をしかめるのをやめると、水面の波紋が収まっていくように筋肉は徐々に緩み、もとの造作に戻る。(3-402)

When she stopped frowning her facial muscles gradually relaxed, like ripples vanishing on the surface of water, and her usual features returned.

しかし、次の（２）の例に「彼の口調はすっかり以前のものに戻っていた」とあるが、その英訳は His voice sounded like the old Komatsu（彼の声は以前の小松のように聞こえた）となっていて、「戻った」がたとえば returned とは訳されていない。眼前の状況を描写しているからである。（３）以下も同様である。

（２）「天吾くん、ずいぶん久しぶりだな」と小松が言った。彼の口調はすっかり以前のものに戻っていた。滑らかで、いささか演技的で、つかみどころがない。（3-292）

“Tengo, it’s been a while,” Komatsu said. His voice sounded like the old Komatsu. Smooth, a bit forced, difficult to pin down.

（３）老婦人ははかない笑みを口元に浮かべた。老婦人はさっきよりいくらか若返って見えた。唇にも生気が戻っていた。（2-20）

The dowager gave a fleeting smile that seemed to revive her a little. Her lips now had a touch of color.

（４）あなたが無事に戻ってきてくれてとても嬉しい。（2-362）

I’m so happy you’re all right.

#### 4. 「残した」「残って」などが leave を用いて訳されていない例。

（１）「父は遺言状を残したのですか？」（3-432）

“Did my father have a will?”

英文を和訳すると、「父は遺言状を持っていたのですか」となる。

（２）「跡をまったく残していない。おそらく声も上げさせていない。真夜中に起こったことですから、苦痛の悲鳴を上げていればアパート中に聞こえたはずです。素人にはとてもできないことです」（3-557）

There are no marks on him at all. He probably never had a chance to even scream.

「跡をまったく残していない」が There are no marks on him at all（彼の身体にはまったく跡がない）と訳されている。「おそらく声も上げさせていない」が He probably never had a chance to even scream と訳されている。これに関しては 5. 参照。

なぜこう訳されているのか（２）——村上春樹を英語で読む（２－２）——

（３）両方の手首にはきつく縛られたあとが残っていた。（1-390）

Both wrists showed signs of having been tightly bound.

英文を和訳すると、「両手首はきつく縛られた印を示していた」となる。

（４）やがて少女は天吾の左手を握っていた右手を放し、何も言わず、振り返ることもなく、足早に教室を出て行った。天吾は広い教室の中に一人だけで残された。（2-307）

Tengo stood there all alone.

「天吾は広い教室の中に一人だけで残された」が Tengo stood there all alone（天吾はそこにまったく一人で立っていた）と訳されている。「広い」がここで訳されていないが、これについては第七章参照。

（５）テーブルの上には中身が半分以上残ったビール瓶。グラスがひとつ。（56）

On the table is a half-empty bottle of beer and one glass.

「半分以上残った」が half-empty と訳されている。

次例（６）は参考例として挙げる。『ノルウェイの森』からの一節である。英訳（Ａ）は Jay Rubin、英訳（Ｂ）は Alfred Birnbaum によるものである。「湯のみには飲みかけの茶が残り」が（Ａ）では a tea cup stood there half empty と訳され、筆者の主張の補強となるが、（Ｂ）では a cup with a few sips of tea left in it と訳され、left が用いられている。これが筆者の考えの反証になるのか、今後の検討課題とする。

（参考例）

（６）門衛小屋にはつい先刻まで人がいたことを示す形跡が残っていた。灰皿には三本吸殻があり、湯のみには飲みかけの茶が残り、棚にはトランジスタ・ラジオがあり、壁では時計がコッコツという乾いた音を立てて時を刻んでいた。『ノルウェイの森』（上169）

（Ａ）A few clues suggested the guard had been there until some moments before: the ashtray held three buttends, a tea cup stood there half empty, a transistor radio sat on a shelf, and the clock on the wall ticked off the time with a dry sound.

（Ｂ）There were signs that someone had been in the gatehouse only moments before: three cigarette butts in an ashtray, a cup with a few sips of tea left in it, a transistor radio on a shelf, the dry rasp of a clock ticking away the minutes on the wall.

## ５．「させる」「させられる」が使役構文や受動態で訳されていない例

次の（１）で、「遊ばせている」とあるが、この状況を見て、親が子供を「遊ばせている」というの

は推測である。眼前には「親が子供を見つめている」ということが行われているだけである。そこで、「子供たちを砂場で遊ばせている」が *watching their children playing in the sandbox* (砂場で遊んでいる子供を見ている) と訳されている。(2) 以下は類例である。該当箇所に関して、コメントを付す。

(1) 二人の若い母親がまだ幼稚園に上がっていない子供たちを砂場で遊ばせている。二人は子供たちからおおむね目を離すことなく、それでも熱心に立ち話をしている。(3-166)

Two young mothers were watching their children, not yet old enough for kindergarten, playing in the sandbox. They were deep in conversation yet kept their eyes glued to their children.

(2) もう一度クロロフォルムみたいなものをかがされ、目が覚めたのは夜明けだった。俺は神宮外苑のベンチに寝かされていた。(3-360)

They drugged me again with chloroform or whatever, and when I woke up it was daybreak and I was lying on a bench in Jingu Gaien.

「寝かされていた」が *was lying* (寝ていた) と訳されている。

(3) 意識が戻ったとき、牛河は寝袋の外に出されていた。(3-469)

When he regained consciousness, Ushikawa was no longer inside the sleeping bag.

「外に出されていた」が *was no longer inside* (もう中にはいなかった) と訳されている。

## 6. 「読みかけの本」

次例の最後に「読みかけの本」とあるが、どうして「読みかけ」とわかるのか。これは、「直前の過程の推測」が行われているからである。見ただけでは本来わかるはずがない。目の前にあるのは「開かれている状態の本」である。そこでこの部分の英訳は下のようになっている。

天吾はその小さな女教師をあらためて見下ろした。そして彼女のアパートに泊めてもらったときのことを思い出した。彼女の住んでいる、とても実務的でこざっぱりした部屋を頭に思い浮かべた。レースのカーテンと、いくつかの鉢植え。アイロン台と読みかけの本。(1-323)

The ironing board and open book



## 第二章

### 日本語では、わかるはずのないことがわかる？

『1Q84』に次のような文章がある。

(1) 牛河はさめたカフェオレを手に取り、まずそうにすすった。それから「安田キョウコ？」と言った。(2-217)

Ushikawa picked up his cold café au lait and winced as he sipped it. “Kyoko Yasuda?”

「まずそうにすすった」が *wincing as he sipped it* (すするときに顔をしかめた) と訳されている。原文では表情から推測して「まずそう」と言語化しているが、英訳は表情だけを言語化している。

次の(2)では「天吾」の外見が描写されている。その中に「上着のポケットには厚い文庫本が入っている」とある。どうして「厚い文庫本が入っている」と分かるのか。英訳ではその部分は *A thick paperback book peeped out of a jacket pocket* (厚い文庫本が上着のポケットから覗いていた) と訳されている。原文では「なぜわかるのか」が示されていないが、英訳ではそれが示されている。

(2) 荷物は持っていない。彼の大きな両手は折り目のついていないチノパンツのポケットに突っ込まれていた。ハイネックのセーターに、くたびれたオリーブグリーンのコードデュロイの上着、収まりの悪い髪。上着のポケットには厚い文庫本が入っている。(3-454)

Tengo was carrying nothing with him. His hands were stuffed in the pockets of his unpleated chinos. He had on a high-neck sweater and a well-worn olive-green corduroy jacket, and his hair was unruly. A thick paperback book peeped out of a jacket pocket.

このように、日本語では、「見えないもの(わからないもの)」をあたかも「見えているもの(わかるもの)」であるかのように描写することがある。本章では、そのような例を扱う。

(3) 天吾が東京に戻らず、その海辺の町にしばらく留まっていることがわかったと、看護婦たちは彼に親しみを抱き始めた。(3-103)

Once they discovered that he was not going back to Tokyo, the nurses began to act more friendly.

「親しみを抱き始めた」が *began to act more friendly* (より親しげに振る舞い始めた) と訳されている。例(1)と同様に日本語は「心の動き」を、あたかも見えるもののように言語化している。次例(4)には、「重いトラック」とあるが、「重い」とわかるのは「窓ガラスが震えた」からであ

る。これは「傍証による推測」である。そこで、「重いトラック」は「見てわかる」a large truck (大きいトラック) と訳されている。

(4) 重いトラックが前の道路を通ると、窓ガラスがかたかたと震えた。(3-174)  
Whenever a large truck rolled by outside, the windows rattled.

次例(5)は「軽い」の例である。「身の軽い鳥たち」とあるが、なぜそれがわかるかが、原文では言語化されていない。

(5) 柳の枝のてっぺんに身の軽い鳥たちがとまっているの見える。(1-143)  
When Aomame reached the top of the slope, she noticed a flock of little birds in the willows' uppermost branches, barely weighing them down.  
「身の軽い鳥たち」とわかるのは、barely weighing them down (枝をほとんど押し下げていない) からである。そこで「身の軽い鳥たち」は「見てわかる」little birds (小さな鳥たち) と訳されている。

(6) 甘やかされた少年時代を送り、外国に留学し、英語とフランス語をよく話し、何ごとによらず自信たっぷりだった。(1-68)  
After a pampered childhood, he had gone to study abroad, spoke good English and French, and exuded self-confidence.  
「自信たっぷりだった」が exuded self-confidence (発散していた) と訳されている。

(7) 天吾は歯を磨き、煙草の匂いがついた上着をハンガーにかけ、パジャマに着替えてそのまま眠ってしまった。(3-461)  
He brushed his teeth, hung up his jacket—which reeked of cigarette smoke—changed into pajamas, and went to sleep.  
「煙草の匂いがついた」が which reeked of cigarette smoke (煙草の煙の悪臭を放つ) と訳されている。「(匂いが) ついている」とわかるのは「(匂いが) 放たれている」からである。

次例(8)は参考として挙げるが、原文の断言を英訳は推測にしている。

(8) 猫は夜のあいだに木から降りてきて、どこかに遊びに行ってしまったんだってみんなは言った。『スプートニクの恋人』(162)  
Everybody told me the cat must have come down from the tree in the night and gone off somewhere.

### 第三章

#### 「それ」と this, that

「それ」を Yahoo 辞書の『プログレッシブ和英辞典』で引くと、that, it と挙がっていて、this は挙がっていない。しかし、以下で見るように、村上春樹『1Q84』の原作と英訳を比較すると、原文の、前文を受ける「それ」が this と英訳されている例が多く見つかる。もちろん「それ」が it と訳されている場合もあるのだが、this と that は文法的に指示代名詞という共通点を持っている (it は人称代名詞) ので、本章では原文の「それ」が this または that で訳されている例を挙げ、その違いを検討する。

Yahoo 辞書にある『e プログレッシブ英和辞典』の this の項に次のような説明がある。

(▼ that と比べて話し手の意識の中心にあると感じられるものに用いる。話し手が心理的に自分に属すると考える領域にあるもの、その時念頭にある考えをさすのにも用いる)。

これは、一般的に「近く」のものは this、「遠く」のものは that で指す、と言われる区別を心理的に述べたものと読める。以下、この「心理的遠近」を具体例で例証していく。

次例 (1) では、最初の登場人物の一人の青豆の発言を受けての相手 (リーダー) の発言中の二つの「それは」(イタリックになっている) を取り上げる。下はそのリーダーの発言部分の英訳である。

(1) 「視力は私には手のつけようがない問題です」と青豆は言った。「さっきも申し上げましたように、私の専門は筋肉ですから」

「それはよくわかっている。もちろん専門医に相談したよ。何人もの高名な眼科医のところに行った。多くの検査をした。しかし今のところ打つ手はないそうだ。わたしの網膜は何らかの損傷を受けている。原因はわからない。症状はゆっくりと進行している。このままいけば、遠からず視力を失ってしまうかもしれない。もちろんあなたが言うとおり、それは筋肉とは関係のない問題だ。しかしとにかく、上から順番にわたしの抱えている身体的な問題を並べていこう。あなたに何ができるか、何ができないか、それはあとで考えればいい」(2-194)

“Yes, I am quite aware of *that*. And of course I consulted medical specialists. I have been to any number of famous eye doctors and had many tests. But they tell me there is nothing they can do at this point. My retinas have been damaged, but they don't know the cause. The symptoms are slowly progressing. If things go on like this, I will lose my sight before long. As you say, of course, *this* is a problem that has nothing to do with the muscles. But let me

list my physical problems in order, and when I am through, we can think about what you can and cannot do.”

「それはよくわかっている」の「それは」は *that* と訳されているが、「それは筋肉とは関係のない問題だ」の「それは」は *this* と訳されている。

これは、最初の「それは」は相手の青豆の発言内容を受けてのものであるのに対して、後の「それは」は自分の発言内容を受けてのものであるからである。

つまり、日本語では「それは」は「相手の発言を受ける」場合も「自分の発言を受ける」場合も用いられるのに対して、英語では、この二つを区別して、前者の場合は *that*、後者の場合、この例では *this* が用いられているのである。この場合、相手の発言と自分の発言との心理的距離の違いで説明できるであろう。なお、次例(2)で見るように「自分の発言を受ける」場合に *that* が用いられる場合もある。

(2)は、上例と同じ二人による対話文である。「それは」がそれぞれの発話に出てきて、それぞれ直前の自分の発言を受けている。しかし、最初の「それは」は *this* と訳され、後の「それは」は *that* と訳されている。

(2)「しかし人の肉体は、すべての肉体は、わずかな程度の差こそあれ非力で矮小なものです。それは自明のことじゃありませんか」と青豆は言った。

「そのとおりだ」と男は言った。「あらゆる肉体は程度の差こそあれ非力で矮小なものであり、いずれにせよほどなく崩壊し、消え失せてしまう。それは紛れもない真実だ。しかし、それでは人の精神は？」(2-234)

わかりやすくするため、発言別に英訳を付す。該当箇所はイタリックで表す。

(A)「しかし人の肉体は、すべての肉体は、わずかな程度の差こそあれ非力で矮小なものです。それは自明のことじゃありませんか」と青豆は言った。

“But people’s flesh—all flesh, with only minor differences—is a powerless and puny thing. *This is self-evident, don’t you think?*”

(B)「そのとおりだ」と男は言った。「あらゆる肉体は程度の差こそあれ非力で矮小なものであり、いずれにせよほどなく崩壊し、消え失せてしまう。それは紛れもない真実だ。しかし、それでは人の精神は？」

“I do,” the man said. “All flesh, with only minor differences, is a powerless and puny thing doomed soon to disintegrate and disappear. *That is an unmistakable truth. But what, then, of a person’s spirit?*”

この2文にはともに「それは」が用いられていて、それらが指していることはほぼ同じ内容である。(A)の「それは」が指しているのは「人の肉体は、すべての肉体は、わずかな程度の差こそあれ非力で矮小なもの」であるということである。(B)の「それは」が指しているのは「あらゆる肉体は程度の差こそあれ非力で矮小なものであり、いずれにせよほどなく崩壊し、消え失せてしまう」ということである。そしてそれぞれ「自分の発言内容」を指して「それは」が用いられているように思える。

それにも拘わらず、(A)では「それは」がthisと英訳され、(B)では「それは」がthatと英訳されている。すると、このthisとthatの違いは、これらの指示代名詞が指す内容自体に起因するのではないことになる。

(2)の原文の引用からわかるとおり、(B)は(A)に続いての発言で、(B)の「あらゆる肉体は程度の差こそあれ非力で矮小なものであり、いずれにせよほどなく崩壊し、消え失せてしまう」は内容的には(A)の「それは」が指す内容の繰り返しである。(A)の「それは」が指しているのは、この人物の主張であるが、(B)の相手の発言を受けての「それは」が指しているのは、相手の意見であり、この人物の主張ではない。それが「心理的距離感の違い」につながり、前者の「それは」がthis、後者の「それは」がthatになっているのである。

以下、ここまで考察した内容を、例を追加してさらに考える。長い例の場合、該当部分のみ英訳を付す。

## 1. 「相手の発言を受ける that」

(1)「それから」と運転手はルームミラーに向かって言った。「ひとつ覚えておいていただきたいのですが、ものごとは見かけと違います」

ものごとは見かけと違う、と青豆は頭の中でその言葉を繰り返した。そして軽く眉をひそめた。「それはどういうことかしら？」(1-22)

“What do you mean by *that*?”

「それはどういうことかしら？」の「それは」がthatと訳されている。

(2)「なるほど」、副校長は端整な唇の両端をわずかに持ち上げた。「ただ、おわかりだとは思いますが、個人のプライバシーに関する情報をお渡しすることは、場合によってはできかねます。たとえば学業成績であるとか、家庭環境であるとか」

「それはよく承知しております。我々といしましてはただ、彼女が川奈さんと実際に同じクラスになったことがあるかどうかを知りたいのです。そしてもしそうであれば、当時の担任の先生の名前と連絡先もお教えいただければありがたいのですが」(3-193)

Of course, I'm fully aware of *that*.

「それはよく承知しております」の「それは」がthatと訳されている。

## 2. 「自分の発言を受ける」 this

1. では、「相手の発言を受けるそれは」が that と訳されていたが、「自分の発言を受けるそれは」は this になる場合と、3. で挙げるように that になる場合がある。まず this になる例を挙げる。違いについては 3. で考える。

(1) 「小説を書くとき、僕は言葉を使って僕のまわりにある風景を、僕にとってより自然なものに置き換えていく。つまり再構成する。そうすることで、僕という人間がこの世界に間違いなく存在していることを確かめる。それは数学の世界にいるときとはずいぶん違う作業だ」(1-89)

*This is a totally different process from steeping myself in the world of math.*”

(2) 『『空気さなぎ』という物語はどこまでも君自身のものだ。君の中から出てきたものだ。それを僕が自分のものにするわけにはいかない。僕はあくまで技術的な側面から君の手伝いをするだけだ。そして僕が手を貸したという事実を、君はどこまでも秘密にしくちやならない。つまり僕らは共謀して世界中に嘘をつくことになる。それはどう考えても簡単なことじゃない。ずっと心に秘密を抱えていくということは」(1-95)

Any way you look at it, *this* is not an easy thing to do, to keep a secret locked up in your heart.

(3) 革命を全否定することは、彼がこれまでに送ってきた歳月を全否定することであり、みんなの前で自らの誤りを認めることだった。それは彼にはできない。(1-229)

*This* was something he could not do.

(4) 「でも、話が途中から少しずつ変わってきたようです」と天吾は言った。「それはつまり、小松さんの立てたもともとの計画に、先生が修正を加えたということなののでしょうか？」(1-423)

“But things seem to have changed a bit along the way,” Tengo said. “Does *this* mean that you revised his original plan, Professor?”

(5) そのほかすべての物事に私が責任を持ちます。それでかまいませんか？

I will be responsible for everything else. Is *this* all right with you?

## 3. 「自分の発言を受ける」 that

2. では「自分の発言を受ける this」を取り上げたが、3. では自分の発言を受けているが、「それ」が that と訳されている場合を考える。

(1)「この作品はあくまでふかえりっていう十七歳の女の子が書いた小説なんだ。それは動かせない」(1-94)

“It would remain a work by the seventeen-year-old girl named Fuka-Eri. *That* would not change”

この例の場合「ふかえりっていう十七歳の女の子が書いた小説なんだ」の部分は「客観的事実」と捉えられている、と筆者は考える。原文の「それ」を「これ」に変えると、発話者の強い主張になる。英訳においても this に変えると同様のことが起こると考えられる。

(2)「警官の制服と拳銃はたしかに変わったけど、それはもう何年も前のことです。かっちりしたかたちの制服が、ジャンパーみたいなカジュアルなものになって、拳銃は新型の自動式に変わりました。それからあとはとくに大きな変化はないと思うけど」(1-110)

Police uniforms and guns both underwent a change, but *that* was some years back.

この場合の「それ」は「警官の制服と拳銃はたしかに変わった」を指すが事実を述べているだけ。

(3) 高井さん、わたくしのことを不快に思っておられるでしょう。考えておられることはそれこそ手に取るようにわかります。はい、わたくしはたしかに不快な人間です。それは本人もわかっております。(3-98)

Miss Takai, I know you find me unpleasant. I can understand perfectly what you're thinking. And you're right—I am an unpleasant person. I'm aware of *that*.

この場合の「それ」は「わたくしはたしかに不快な人間です」を指すが、これは「高井さん」の考えを言葉にしたものなので、主張ではない

(4)「さっきも申し上げたように、その気持ちは理性にも常識にも手の及ばないところから出てきたものだからです。僕としてはもちろん、できるかぎりエリさんを護りたいと思います。しかし彼女に危害が及ぶようなことは決してありません、と請け合うことはできません。それは嘘になります」(1-217)

*That* would be a lie.

この場合の「それは」は「(できないけれど) 請け合いますと言うこと」を指す。主張ではない。

この段階での結論としては、「それは」が指すものが、this の場合は、より「話者の考え、主張」と訳者に理解されており、that の場合には訳者にはそうは捉えられていない、ということになる。

#### 4. ある発言内容を受けての地の文中の「それ」

1. では、相手の発言を受けての、もう一人の人物の発言について見たが、本項では「相手の発言

内容」を受けての地の文における「それ」を見る。いくつか例を挙げる。

(1)「リトル・ピープルは本当にいるとエリさんは僕に言いました」  
先生はそれを聞いて、しばらくむずかしい顔をしていた。(1-266)  
A thoughtful frown crossed the Professor's face when he heard *this*.

(2)「これから先は『さきがけ』とそのリーダーの話をしましょう。彼について知り得たことを、あなたにお話しします。それが今日あなたにここに来てもらいたいちばん大事な用件です。もちろん結果的に、つばさに関わった用件にもなるわけですが」  
青豆は肯いた。それは彼女の予測していたことでもあった。(2-16)  
Aomame nodded. She had been expecting *this*.

(3)「薬は取り出して飲み込むまでに時間がかかる。カプセルをかみ砕く前に口の中に手を突っ込まれたら、身動きがとれなくなる。でも拳銃があれば、相手を牽制しながらものごとを処理することができる」  
タマルはそれについてしばらく考えていた。(2-29)  
Tamaru thought about *this* for a moment.

以上の例に見えるように、この場合の「それ」は、直前の引用文を指すので、*this* で訳されている。

## 5. 地の文中の「それ」が同じ地の文中の内容を受けている場合

この項では、全体が地の文、つまり語り手の文になっている場合を考える。① *this* で受けている場合、② *that* で受けている場合、に分けて考察する。

### ①「それ」 *this*

まず「それ」が *this* と訳されている例を扱うが、これらを見ると、英訳では、小説の語り手が、芝居でいうと、舞台上にいて、「それ」と指示しているような感覚になる。これは三人称小説の語り手に関する日英比較につながる可能性があると筆者は考えている。

(1) そしてつばさの手に重ねていた手を放し、その中指を軽く眉にあてた。それは老婦人が——それほどしばしばあることではないが——何かを考えあぐねているしるしだった。(1-439)  
*This* was a sign—not one she displayed very often—that the dowager had run out of ideas.

(2) その物語は天吾の手による改変を切実に求めていたし、彼はその求めをひしひしと感じ取る



ことができた。それは天吾にしかできないことであり、やるだけの価値のあることであり、やらなくてはならないことだった。(1-182)

*This* was something that only Tengo could do. It was a job well worth doing, a job he simply had to do.

(3) 彼女はサグト大統領の頭の禿げ方がけっこう気に入っていたし、宗教がらみの原理主義者たちに対しては、一貫して強い嫌悪感を抱いていたからだ。そういった連中の偏狭な世界観や、思い上がった優越感や、他人に対する無神経な押しつけのことを考えただけで、怒りがこみ上げてくる。彼女にはその怒りをうまくコントロールすることができなかった。しかしそれは現在彼女が直面している問題とは関係のないことだ。(1-190)

But *this* had nothing to do with the problem she was now confronting.

(4) 針の先端が肉を貫き、脳の下部にある特定の部位を突き、蠟燭を吹き消すように心臓の動きを止める。すべてはほんの一瞬のうちに終わってしまう。あっけないくらい。それは青豆にしかできないことだった。(1-72)

Only Aomame could do *this*.

(5) 青豆はあらためて車内を見まわした。タクシーに乗ってからずっと考え事をしていたので気づかなかったのだが、それはどう見ても通常のタクシーではなかった。(1-14)

She had been too absorbed in her own thoughts to notice until now, but *this* was no ordinary taxi.

(6) 高速道路は前と同じようにひどく渋滞している。渋谷方向に向かう車の列はほとんど前に進んでいない。彼女はそれを目にして驚く。(3-589)

*This* surprised her, and she wondered why.

(7) 天吾は黒い薄手の丸首セーターの上に、学生時代からずっと着ているヘリンボーンのジャケットを着て、ベージュのチノパンツに、茶色のハッシュパピーを履いていた。靴は比較的新しいものだ。それが彼にできるいちばんこざっぱりした格好だった。(1-174)

*This* was as close as he could come to dapper attire.

## ②「それ」 that

次に「それ」が *that* と訳されている例を扱うが、この場合の *that* は、①と同じ比喩を使うと、舞台上にないものを指しているようにとれる。

(1) 記事には、四人の選考委員は全員一致で彼女の『空気さなぎ』を受賞作に選んだと書かれていた。論議のようなものは一切なく、選考会は十五分で終了した。それはきわめて珍しいことだった。(1-407)

All reported that the four-person screening committee had chosen the work unanimously after only fifteen minutes of deliberation. *That* in itself was unusual.

この場合、「それは」が指すのは、新聞記事による間接情報で「舞台の外」にあるものを指している。

(2) 真夜中の悪魔のように熱くて濃いコーヒーが彼女の好みだ。しかしそれはおそらく昼下がりの温室には馴染まない飲み物だった。(1-153)

She preferred coffee as hot and strong as a devil at midnight, but perhaps *that* was not a drink suited to a hothouse in the afternoon.

「熱くて濃いコーヒー」は舞台上にはない。

(3) しかし青豆はどこまでも真剣な顔をしていた。冗談を言っているわけではない。目を見ればそれはわかった。(1-113)

But her face was utterly serious. She was not joking. Her eyes made *that* clear.

「冗談を言っているわけではない」は否定なので舞台上には「ない」

(4) 暴力は最初からあったし、時を追うにしたがってますます執拗で陰惨なものになっていったということだ。しかし環は、その悪夢のような場所から逃げ出すことができなかった。青豆に対してそんなことは一言も言わなかった。相談したところで、返ってくる答えは初めからわかっていたからだ。今すぐその家を出なさい、そう言われるに決まっている。しかしそれができないのだ。(1-300)

But *that* was the one thing she could not do.

「それ」が指しているのは「できないこと」である。

(5) 「僕は今ある人を捜している」と天吾は切り出した。「女の人だ」  
ふかえり相手にそんな話を持ち出したところでどうなるわけでもない。それはよくわかっている。(2-355)

Instead he brought up a new subject. "I'm looking for a certain person," he said. "A woman."

There was no point in talking about this to Fuka-Eri. Tengo was fully aware of *that*.

「そんな話」が *this* と訳されているのは 4. で扱った。ここでは「それはよくわかっている」の「それは」が *that* と訳されている点である。「どうなるわけでもない」は否定である。

## 第四章

### As soon as は「(～すると) すぐ」なのか？

Yahoo 辞書中の『e プログレッシブ英和中辞典』で as soon as を引くと、「…するやいなや, …するとすぐに」とある。すると、私たちは、日本語原文にこのような表現がある場合には as soon as などを用いて英訳し、ない場合には、as soon as などは用いないと思われる。

しかし、以下に例証するように、日本語の小説の英訳において原文に「(すると) すぐに」等の表現がない場合にも as soon as が用いられている場合がある。

次の例は、村上春樹『ダンス、ダンス、ダンス』の原文とその英訳からのものである。訳者は Alfred Birnbaum。

(1) 我々が中に入っていくと客はみんな目を上げて彼の方をちらりと見た。『ダンス、ダンス、ダンス』(上230)

As soon as we entered, everyone's eyes were on him.

この英訳を英和辞典に従って和訳しなおすと、「僕たちが入るとすぐ、みんなの目が彼に向いた」となる。しかし、原文には「すぐ」はない。次例も同様である。『ノルウェイの森』から。訳者は Jay Rubin。

(2) 僕は仕事から家に戻ると新しい机に向って緑への手紙を書いた。『ノルウェイの森』(下170)

As soon as I got home from work, I sat at my new desk and wrote to Midori.

(参考例)

なお、『ノルウェイの森』には Alfred Birnbaum による別訳もあり、そこでは次のように when で訳されている。

When I returned from the day's work to my new desk, I wrote Midori a letter.

次の『ねじまき鳥クロニクル』からの (3) (4) の例は (2) とほぼ同じ時間関係と思われるが、原文に「すぐ」があり、英訳にも as soon as がある。訳者は (2) と同様 Jay Rubin。

(3) 僕は家に帰るとすぐに妻の仕事場に電話をかけた。『ねじまき鳥クロニクル』(1-104)

As soon as I got home, I phoned Kumiko at work.

(4) 家に帰ったらすぐにシャワーを浴びるのよ。『ねじまき鳥クロニクル』(2-30)

As soon as you get home, take a shower.

ということは、英訳者は原文の「すぐ」を機械的に as soon as と訳しているのではないということになる。(3)の原文の「すぐに」をとって、「僕は家に帰ると妻の仕事場に電話をかけた」としても、英訳が(2)のように as soon as を用いる可能性はある。(4)に関しても同様である。

「すぐ(に)」を『大辞泉』で引くと「時間を置かないさま。ただちに」とある。しかし、たとえば、押しボタン式信号に関して、「ボタンを押すと青になった」と言った場合と、「ボタンを押すとすぐ青になった」と言った場合を比較してみて、どちらの文のほうが「より早く青になったと思うか」と学生に尋ねると、教室によって異なるが、時には半分を超える学生が「すぐ」のない方が、「早く青になった感じがする」と返答した。正確な統計は不要であると考ええる。「すぐ」がない方が「早い」と考える人がいるということは、「すぐ」は物理的な時間を表す言葉ではなく、たとえば「思ったより早く」などを表す感覚的な言葉なのではないかと筆者は考えている。

一方、英語の as soon as は、必ずしも「時間関係」ではなく、「原因からその結果への流れ」という関係性を示すための接続詞句ではないかと筆者は考えている。

次例(5)では、原文に「たびに」という表現があって、英訳で as soon as が用いられている。

(5) 自分の名前を口にするたびに、相手は不思議そうな目で、あるいは戸惑った目で彼女の顔を見た。(1-13)

As soon as the name left her lips, the other person looked puzzled or confused.

「たびに」を英訳すれば通例は whenever などを用いると思われるが、この例ではそれよりも as soon as が優先されている。

次例(6)では、原文に「しばらくしてから」という表現があるのに、英訳で as soon as が用いられている。「あの町を離れた」ことが「悪夢を見なくなった」ことの原因になっているからと考えられる。

(6) あの町を離れてしばらくしてからは、もう以前のように頻繁には悪夢を見ないようになりました。「七番目の男」『めくらやなぎと眠る女』(249)

As soon as I moved away from that town, the nightmares decreased in frequency, almost to how it was before.

次例(7)は「いったん〜すると」が as soon as で訳されている例である。

(7) 本を読むのは好きだが、いったん読んでしまえば古本屋に売った。(1-329)

She enjoyed reading books, but as soon as she was through with them, she would sell them to a used bookstore.

以上で、「すぐに」が as soon as と英訳されているのではない、ということがある程度明らかになったと思われる。

以下、原文に「すぐ」等がない場面で as soon as が用いられている例を列挙する。

(8) 相棒が部屋を出て行ったあとで、僕は引出しから彼のウイスキーを見つけ出して一人で飲んだ。『羊をめぐる冒険』(89)

As soon as my partner left the room, I pulled the whiskey bottle out of his drawer and had myself a drink.

(9) 犬は僕が手を放すと、そのまま満足して犬小屋の中に戻り、前足をきちんと揃えて床に伏せた。『羊をめぐる冒険』(293)

As soon as I released my hand, the dog went back in the doghouse, satisfied, aligned its paws with the portal, and lay down on the floor.

(10) ボタンをはめてしまうと直子はすっと立ちあがり、静かに寝室のドアを開けてその中に消えた。『ノルウェイの森』(上240)

As soon as the last button was in place, she rose and glided toward the bedroom, opened the door silently, and disappeared within.

ちなみに、(10) は Alfred Birnbaum 訳では no sooner...than が用いられている。

No sooner had she done all the buttons than she jumped up, silently opened the bedroom door, and disappeared inside.

Alfred Birnbaum は次例でも「すぐに」のない文を no sooner...than を用いて訳している。

(参考例)

獣たちの先頭が門の前に到着すると、門番が門を開く。『世界の終りとハードボイルドワンダーランド』(26)

No sooner have the first animals plodded up to the Gate than the Gatekeeper has it opened. (14)

(11) 絵を手にとって見るともなく見ているうちに、私はとても懐かしい気持ちになりました。「七番目の男」『めくらやなぎと眠る女』(250)

As soon as I took the pictures in my hand, before I had even had a chance to really look at them, I was overwhelmed with a feeling of longing and remorse.

(12) すみれはオフィスに着くと花の水を換え、コーヒーマーカーでコーヒーを作った。『スプートニクの恋人』(69)

As soon as she arrived at the office, Sumire would water the plants and get the coffee-maker going.

## 第五章

### 「玄関」はいつも entrance ではない

Yahoo辞書中の『プログレッシブ和英中辞典』で「玄関」を引くと「〔入口〕 the entrance, the front door」とある。すると、日本語に「玄関」とあれば、それを英訳する場合にはこれらの語を用いることになると思われる。

しかし以下に見るように、「玄関」が the entrance, the front door などと英訳されている場合と、その「玄関」のついている「建物」を指す the building と英訳されている場合があることに気づいた。

その二つの場合の例を挙げるが、原文中にはいくつかの建物の「玄関」が登場するので、本章では、同じ建物の「玄関」の例に限ることにする。そこで②の参考例を除き、すべて「アパートの玄関」という部分の英訳を調べた。これは登場人物の一人の天吾が住んでいる「アパートの玄関」である。

①「玄関」が entrance, front door などと訳されている例。

#### 1. 「監視対象」としての「玄関」

この項の例は、「玄関」が監視対象になっているものである。同じく登場人物の一人の牛河が、住人である天吾を監視しているのである。実際には監視対象は人間であるが、そこを行き来する人間を監視する場合には、日英とも「玄関 (entrance) を監視する」ことになっている。

(1) 寒さに震え、夕食代わりに冷えたあんパンをかじり、取り壊し寸前の安アパートの玄関を監視し、見映えのしない人々の姿を盗撮し、清掃用のバケツに放尿する。(3-267)

Shivering in the cold, making do with a cold bun for dinner, standing watch over the entrance of a cheap apartment that was ready to be torn down, watching the unattractive people coming in and out, peeing into a wash bucket.

(2) 牛河はピーコートを着たままりモコンのシャッター・スイッチを握り、アパートの玄関に視線を注いでいた。(3-318)

なぜこう訳されているのか（２）——村上春樹を英語で読む（２－２）——

Still wearing his pea coat, Ushikawa held the remote control for the shutter and intently watched the entrance to the building.

（３）すぐにカメラの前に移動し、カーテンの隙間からアパートの玄関を注視した。（3-326）  
He quickly went over to his camera and fixed his gaze on the entrance to the apartment.

このような場合には「もの」としての「玄関」である。

## ２．「目的地」としての「玄関」

五分が経過し、青豆はアパートの玄関に向かう。（3-410）  
After five minutes she headed toward the entrance.

この場合も「もの」としての「玄関」である。

## ３．「地点」としての「玄関」

### （Ａ）「出てきた」場合

（１）そして紙袋を抱えたままアパートの玄関前で立ち止まり、念のためにあたりをぐるりと見回してみた。（3-291）

Standing at the entrance to his building, paper bag in hand, he glanced all around just to make sure.

（２）アパートの玄関を出るとき、立ち止まってあたりをもう一度見回した。しかし注意を惹くものはやはり見当たらなかった。電柱の陰に隠れている男もいない。駐車している不審な車もない。カラスさえやってこなかった。（3-295）

As he exited the front door he stopped and looked around again, but nothing caught his eye—no man hiding in the shadows of a telephone pole, no suspicious-looking car parked nearby. Even the crow wasn't there.

（３）深田絵里子が再びアパートの玄関に出てきたとき、腕時計の針は四時四十五分を指していた。（3-318）

Eriko Fukada came out of the entrance again at four forty-five.

(4) ふかえりがアパートの玄関に現れたのは十一時過ぎだった。(3-374)

It was after eleven when Fuka-Eri appeared at the entrance to the building.

これらの場合には「玄関」の付近で登場人物が「立ち止まって」いるので、「玄関」が、語り手の視界に入っている。そこで、「もの」として玄関と考えられる。

(B)「入っていった」場合

(5) ふかえりが紙袋を抱えてアパートの玄関に姿を消してから、しばらく間をおいて牛河も中に入った。(3-318)

Ushikawa waited a while after Fuka-Eri had disappeared into the entrance of the apartment, grocery bags in hand, before he went in.

(6) 人々はうらぶれた巣に戻っていく無名の鳥たちのように、アパートの玄関に足を踏み入れていった。(3-380)

Like nameless birds returning to their shabby nests, people stepped into the entrance.

「入っていった」時点において玄関が視界に入っていたから「玄関」が the entrance, the front door と訳されている。そこで、「もの」として玄関と考えられる。

②「玄関」が building と訳されている例。

以下の例の場合、の「玄関」は建物に出入りする場合の「通路」となっていて、「もの」としてではなく「機能」としての「玄関」と考えられる。この場合、「玄関」は entrance ではなく building と訳されている。

(A)「出入りする」場合

(1) 朝の通勤時間が終わると、アパートの玄関を出入りする住人はほとんどいなくなった。(3-309)

Once the morning rush hour was over, hardly any residents left the building.

(2) しかしそれから三十分間、アパートの玄関を出入りする人間は誰一人いなかった。(3-326)

For the next thirty minutes, though, no one came into or out of the building.



(3) アパートの玄関を出入りする人間はほとんどいない。しかし牛河としては、天吾が帰宅する時刻を確認しておきたかった。(3-458)

Traffic into and out of the building was sparse, but Ushikawa was determined to see what time Tengo returned.

(B)「出てきた」場合

上の3.「地点」としての「玄関」のところで、「出てきて」その位置に立ち止まっている場合には「玄関」が地点として捉えられるので the entrance と訳される、と指摘した。次例は「立ち止まった」かどうかは不明であるが、玄関を出てきた時点での描写であるので、「玄関」が the entrance と訳されている。

(参考例)

時を置かず黒いダウン・ジャケットを着た女が玄関から出てきた。一度も見かけたことのない女だ。(3-458)

A moment later a woman in a black down jacket came out of the entrance, a woman he had never seen before.

しかし、以下の例においては、「出てきた」あと、そこを去っているなので、「地点」とは捉えられず、「玄関」は the building と訳されている。

(4) 二時半に野球帽をかぶった少女がアパートの玄関から出てきた。彼女は荷物を持たず、足早に牛河の視野を横切っていった。(3-312)

At two thirty a young woman wearing a baseball cap exited the building.

(5) 牛河はそれだけ考えると、ほとんど反射的にニット帽をかぶり、紺のピーコートを着て、マフラーを首にぐるぐると巻き付けた。そしてアパートの玄関を出ると、少女が歩き去った方に走った。(3-313)

Almost without thinking, Ushikawa grabbed his knit cap, yanked on his navy-blue pea coat, and wrapped his muffler around his neck. He left the building and trotted off in the direction he had last seen her.

(6) 持参した引っ越し用のコンテナ・ボックスに、既に硬直を始めた牛河の死体をなんとか押し込み、アパートの玄関から担ぎ出し、ハイエースの荷台に載せた。(3-556)

They had brought along a container, the kind used in moving, and somehow were able to stuff the already-stiff body inside. Then they shouldered it out of the building and into the bed of

the van.

### ③その他

次例の場合には、この場面で「実際に（物理的）玄関を見張っている」のではなく、「玄関を見張る（＝人の出入りを見張る）」という行為が問題となっているので、1の「監視対象」としての「玄関」の場合とは異なり、building が用いられている。

天吾が東京を離れているとなれば、このアパートの玄関を見張っている意味もなくなる。(3-307)  
If Tengo was away from Tokyo, then it was pointless to stake out this building.

## 第六章

### 100%の「もちろん」は of course と訳されない

私たちが和文英訳をするとき、当該の日本語に対応する英語を、和英辞典を用いて探し求めるのが通例である。

たとえば、「もちろん」を和英辞典で引けば、そこには of course, naturally などとあるのが通例である。『ニューセンチュリー和英辞典』の「もちろん」の項には次のようにある。

of course; 【当然】 naturally; 【言うまでもなく】 needless to say; 【確かに】 certainly, surely, 話  
sure やや書 to be sure.

これを見ると、「もちろん」を英訳する場合には of course, naturally などと訳さなければならないと考えるのは当然である。

『1 Q 8 4』においても、次例の場合は、「もちろん」が of course と訳されている。

この何年か仕事として、山ほど応募原稿を読んできました。まあ読んだというよりは、読み飛ばしたという方が近いですが。比較的良く書けた作品もあれば、箸にも棒にもかからないものも——もちろんあとの方が圧倒的に多いんだけど——ありました。(1-36)

I've read tons of submissions over the years—or maybe I should say 'skimmed' rather than 'read.' A few of them were fairly well written, of course, but most of them were just awful.

しかし、以下に示すように、「もちろん」が訳出されていない場合があることがわかる。

和英辞典には、訳出される場合の「訳語」は記載されているが、訳出されない場合についての記

述はないのが通例である。

例えば、下の例（４）の「もちろん月は返事をしてはくれない」に「もちろん」が用いられているが、「月は返事をしてはくれない」は比喩的にはともかく、現実的には100%確実なことである。このような場合「もちろん」は of course と英訳されない傾向がある。「傾向がある」というのは、例（10）に挙げたような例外があるからであるが、『1Q 8 4』においては、ほとんどの「100%の『もちろん』」は of course と英訳されていない。

（１）父親でない男が母親の乳首を吸っているという状況の意味あい、もちろん一歳半の幼児に判断できるはずはない。それは明らかだ。（1-31）

Surely a one-and-a-half-year-old infant was unable to grasp what it meant for a man who was not his father to be sucking his mother's breasts. That much was clear.

（２）日曜日が来ないようにと祈りもした ―― もちろんそんな祈りが聞き届けられることはなかったが。（1-165）

He even prayed for Sunday not to come, though his prayers were never answered.

（３）睾丸を思い切り蹴り上げられる痛さがどのようなものか、女である青豆にはもちろん具体的には理解できない。推測のしようもない。しかしそれが相当な痛みであるらしいことは、蹴られた相手の反応や顔つきからおおよその想像はついた。（1-232）

As a woman, Aomame had no concrete idea how much it hurt to suffer a hard kick in the balls, though judging from the reactions and facial expressions of men she had kicked, she could at least imagine it.

（４）でももちろん月は返事をしてはくれない。（1-381）

But the moon would not favor her with a reply.

（５）できるだけものを考えないように青豆は努める。しかしもちろん何も考えないわけにはいかない。（3-91）

Aomame tried her best to keep her mind clear of any thoughts, but it was impossible not to think of anything.

（６）「そう言えるかもしれない。もちろん私だって子宮にいたときのことは覚えていないから、なかなか正確な比較はできないけど」と安達クミは言って、またくすくす笑った。（3-174）

"I guess you could say that. I don't remember anything from when I was in the womb, so I can't make an exact comparison," Kumi Adachi said, and giggled again.

(7) 三階の天吾の部屋はちょうど真上にあるから、その内部を直接監視するのはもちろん不可能だ。(3-262)

Tengo's third-floor apartment was two stories directly above, so it was impossible to observe his place.

(8) とにかく表情のない男だった。もちろん口を動かしてしゃべるんだが、顔の残りの部分はみごとに動かない。まるで腹話術で使う人形みたいに。(3-347)

The guy had no facial expression at all. His mouth moved when he spoke, but other than that, his face was frozen, like a ventriloquist's dummy.

(9) なぜだと彼は薄れていく意識の中で問かけた。なぜ俺がこんなみっともないところで、こんなみっともない恰好で死んでいかななくてはならないんだ。もちろん答えはない。(3-469)

Why? his fading mind asked. Why do I have to die in such an ugly place, in such an ugly way? There was no answer.

このように、日本語の「もちろん」は、百パーセントのことがらにも用いられるが、英語の of course は、何らかの意味で「強調」する場合に用いられる傾向があるのではないかと筆者は考えている。ただし、別作品『海辺のカフカ』からであるが、次例のように用いられている場合がある。訳者は Philip Gabriel。ちなみに英訳1Q84はBOOK1,2が Jay Rubin、BOOK3が Philip Gabriel によって英訳されたと聞いているので、上例中のページ数(3-XXX)とある例は、一応 Philip Gabriel 訳ということになる。「一応」というのは最終稿に至るまでには編集の手も入っていると考えられるからである。

(10) 「よう、おじさん、死んじゃうのはまあしょうがないけどね、こんな風に大事な仕事をあとに残していかれちゃ困るんだよな」と青年は死者に向かって声をかけた。しかしもちろん返事はない。(2-323)

"I can't do anything about your having died, Gramps, but you've left me in a real bind here," Hoshino said, addressing the corpse, which of course didn't respond.

## 第七章

### 英訳されない「それから」

Yahoo 辞書にある『ニューセンチュリー和英辞典』の「それから」の〔1〕には次のようにある。〔2〕は【追加】の意味であるので省略。

[1] 【順序】(その後(すぐ)) then; (その後) after that; (後で) afterward, later; (それ以来) since (then); (次は) next.

そこで、私たちは原文に「それから」とあれば、このうちのどれかを用いて英訳するはずである。たとえば、次の例では、「それから」が then と訳されている。

(参考例)

小松は上着のポケットからマルボロの箱を取り出し、口に煙草をくわえ、店のマッチで火をつけた。それから腕時計にちらりと目をやった。(1-35)

Komatsu took a pack of Marlboros from his jacket pocket, put one in his mouth, and lit up with the café's matches. Then he glanced at his watch.

しかし、原文の「それから」が訳出されていない場合がある。本章ではそのような場合を1.「あいだに「余計なもの」が挟まっている場合」2.「主語が変更になっている場合」の二つに分けて検討する。

### 1. あいだに「余計なもの」が挟まっている場合

次例(1)の「青豆はそれから」の「それから」が訳出されていない。それは、第一段落が、青豆の服装や所持品についての記述になっていて、「それから」以降も同様であるが、第二段落の初めには青豆の考えが述べられている。このような場合、「それから」は then などを用いて訳されない。つまり、「それから」がつながる事象のあいだに「余計なもの」が挟まっている場合には then などと訳されていない。以下類例を挙げる。「余計なもの」をイタリックで示す。英訳は第二段落の部分だけ付す。

(1) お祈りが終わると、目を開けて鏡の中の自分の姿を見た。大丈夫。どこから見ても隙のない、いかにも有能そうなビジネス・ウーマンだ。背筋はまっすぐ伸び、口元も引き締まっている。大きなずんぐりとしたショルダーバッグだけがいささか場違いだ。たぶん薄手のアタッシュケースでも持つべきなのだろう。しかしそのぶんかえて実務的に見える。念には念を入れて、ショルダーバッグの中の品物をもう一度点検した。問題はない。すべてあるべき場所に収まっている。なんでも手探りで取り出せるようになっている。

あとはただ決められたことを実行するだけだ。揺らぎのない信念と無慈悲さを持ち、まっすぐとにあたなくてはならない。青豆はそれから、ブラウスのいちばん上のボタンをはずし、身をかがめたときに胸の谷間が見えやすいようにする。もう少し胸が大きいと効果的なものにな、と彼女は残念に思う。(1-66)

*Now it was just a matter of carrying out the task as arranged. Head-on. With unwavering*

*conviction and ruthlessness.* Aomame undid the top button of her blouse. This would give a glimpse of cleavage when she bent over. If only she had more cleavage to expose!

以下は類例である。

(2) 女主人はソーサーを左手で持ち、右手でカップを持って、それを口もとに運び、静かにハーブティーを一口飲んだ。香りを味わい、小さく肯いた。カップをソーサーに戻し、そのソーサーをトレイの上に置いた。ナプキンで口もとを軽く押さえてから、膝の上に置いた。それだけの動作に彼女は、ごく控え目に言って、普通の人のおおよそ三倍の時間をかけた。森の奥で滋養のある朝露を吸っている妖精みたいだ、と青豆は思った。

それから女主人は小さく咳払いをした。(1-153)

The dowager lifted her saucer with her left hand and, with her right hand, brought her cup to her mouth for a quiet sip of herbal tea. She savored its fragrance and gave a little nod. She returned the cup to the saucer and the saucer to the tray. After dabbing at her mouth with her napkin, she returned the cloth to her lap. *At the very least, she took three times as long to accomplish these motions as the ordinary person. Aomame felt she was observing a fairy deep in the forest sipping a life-giving morning dew.*

The woman lightly cleared her throat.

(3) ひどく酸っぱいものを口の中に含んでしまったときのように、青豆は顔をしかめた。しかし先刻ほど激しいしかめ方ではなかった。それからまたボールペンの尻で前歯をこつこつと強く叩き、喉の奥で重いうなり声を立てた。(1-195)

Aomame scowled as if she had bitten into something horribly sour, though the scowl was not as extreme as the earlier one. She started tapping her ballpoint pen against her teeth again, and released a deep groan.

(4) 老婦人はしばらく何も言わず、青豆の目を見ていた。青豆が口にしたことの何かが、あるいはその口調が、どうやら彼女に強い印象を与えたようだった。それから静かに肯いた。(1-239)

The dowager said nothing for a while, looking Aomame in the eye. *Either Aomame's words or her tone of voice seemed to have made a strong impression on her.* She nodded gravely.

(5) タマルは肯いた。しかし何も発言しなかった。彼はそこにあったかもしれない可能性については、これまで一人でいやというくらい考えたのだ。今さら他人に向かって語るべきことは何もない。

それからタマルは手を伸ばして傍らのキャビネットの抽斗を開け、黒いビニールのバッグを取り

出した。(2-70)

Tamaru nodded but said nothing. *He had thought about the various possibilities so much on his own that he was sick of thinking about them. There was nothing left for him to say to anybody else.*

Tamaru reached over and opened a drawer of the cabinet by his desk, taking out a black plastic bag.

## ２．主語が変更になっている場合

「それから」の前後で主語が変わっている場合も「それから」は訳出されていない。以下に例を挙げる。英訳は該当部分だけを示す。

（１）青豆はグラスを持ち上げた。男もハイボールのグラスをちょっとだけ持ち上げた。乾杯をするみたいに。

それから青豆は隣に置いていたショルダーバッグを肩にかけ、オンザロックのグラスを手に、席を二つぶんすると移動し、男の隣の席に移った。(1-107)

Aomame slung her bag on her shoulder and, whiskey glass in hand, slipped over two seats to the stool next to his.

（２）青豆は黙って肯いた。それから自分が暗闇の中にいることを思い出して、「わかりました」と口に出して言った。声はいつもより少し硬く、高くなっているようだ。

それから男はしばらく、暗闇の中で青豆の姿を見つめた。(2-187)

For a time, the man stared at Aomame in the darkness.

（３）彼女は服を脱ぎ、熱いシャワーを浴びていやな汗の匂いを落とした。すべての銃が火を吹くわけじゃない、青豆はシャワーを浴びながら自分にそう言い聞かせた。銃はただの道具に過ぎない。そして私が生きているのは物語の世界じゃない。それはほころびと、不整合性と、アンチクライマックスに満ちた現実の世界なのだ。

それから二週間がこともなく過ぎた。(2-80)

Two weeks passed uneventfully.

（４）「ああ、こんなおいしいワインを飲んだのは生まれて初めてだよ」とあゆみは一口飲んだあとで、目を細めて言った。「いったいどのどいつがこんなワインに文句をつけるんだろうね」

「どんなものにでも文句をつける人はいるものよ」と青豆は言った。

それから二人はメニューを仔細に眺めた。(1-336)

The two women studied the menu.

(5) 十時前に大きなカラスが一羽やってきて、人気のない玄関のステップにしばらく立っていた。カラスはあたりを注意深く見回し、何度か肯くような素振りを見せた。太い大きくちばしが空中を上下し、艶やかな黒い羽が太陽の光を受けて輝いた。それからいつもの郵便配達人が赤い小型バイクに乗ってやってきて、カラスは不承不承、翼を大きく広げて飛び立っていった。

The mailman pulled up on his small red motorcycle and the crow reluctantly spread its wings wide and flew off.

## 第八章

### ある表現をどこで訳すか

(1) の例で「赤いスズキ・アルトに乗った小さな女の子」とまず描写され、その女の子が「助手席の窓から顔を突き出し」と続く。この女の子が「助手席に座っている」ことはこの車と、それに乗っている女の子を目にした段階で見えているはずである。そこで、英訳では、この部分は The little girl in the front seat of the red Suzuki Alto (前の座席にいる女の子) と訳されている。本章では、このように、原文と英訳で、ある表現の位置が異なっている例を扱うが、(1) や続く例を見てわかる通り、位置、数量、様子など、見てわかる情報は、英語では日本語より早く言語化される傾向があることがわかる。

#### A. 位置情報

(1) 赤いスズキ・アルトに乗った小さな女の子が、助手席の窓から顔を突き出し、ぽかんと口を開けて青豆を眺めていた。(1-24)

The little girl in the front seat of the red Suzuki Alto stuck her head out of the window and stared, open mouthed, at Aomame passing by

(2) 青豆がピンチに陥ると、すぐにマウンドにやってきて、有益な助言を手短に与え、にっこり笑い、グラブで彼女のお尻をぽんと叩いて、守備位置に戻っていった。(1-296)

Whenever Aomame got herself into a difficult situation on the mound, Tamaki would run over to her, offer her a few quick words of advice, flash her a smile, pat her on the butt with her glove, and go back to her position in the infield.

「ピンチに陥る」の部分で a difficult situation on the mound と「マウンド」が訳出されている。



なぜこう訳されているのか（２）——村上春樹を英語で読む（２－２）——

（３）そして彼らは首をひねりながら去っていった。猫たちの足音は階段を下り、夜の闇の中に消えていった。（2-166）

The three cats cock their heads, puzzled, then retreat down the stairs. The young man hears their footsteps going down and fading into the dark of night.

「階段」が「去っていった」のところで retreat down the stairs と訳されている。

（４）門番はその重い門を軽々と手前に引き、集まった獣たちを門の外に出す。門は両開きだったが、門番が開くのはいつも片側に限られていた。左側の扉は常に固く閉ざされたままだった。獣たちが一頭残らず門を通過してしまうと、門番はまた門を閉め、錠を下ろした。『世界の終りとハードボイルドワンダーランド』（26）

The Gatekeeper swings the right of these massive doors toward him effortlessly, then herds the gathered beasts out through the Gate. The left door never opens. When all the animals have been ushered out, the Gatekeeper closes the right door again and lowers the bolt in place.

「重い門」が the right of these massive doors と訳され、right がここで追加されているが、原文には「右」はなく、2行目の「門番が開くのはいつも片側に限られていた。左側の扉は常に固く閉ざされたままだった」からそれはわかる。

（５）港の建物の白い壁にまるで表札みたいに、島の名前が黒々と巨大な字で書いてあった。『スプートニクの恋人』（135）

As if on some huge nameplate, the name of the island was written in gigantic letters on the white walls of a building in the harbour.

「表札」が huge nameplate と訳され、原文にない huge が追加されている。これは、「巨大な字」が書いてあるということは、「表札」も「大きい」と考えられるから、英訳では最初の段階で描写されている。

## B. 雰囲気、様子など

（１）助手席に座った若い男は窓を開けて、退屈そうに煙草を吸っていた。（1-21）

A bored-looking young man in the front passenger seat was smoking a cigarette with his window open.

「退屈そうに」が bored-looking young man（退屈そうな若い男）と「若い男」を修飾して先に訳出されている。

（２）「よう天吾くん」と誰かがさっきから呼びかけていた。その声は横穴のずっと奥の方から、ぼんやりと聞こえてきた。（1-33）

“Tengo, Tengo!” someone was calling. The muffled voice seemed to reach him from the depths of a cave.

「その声」が The muffled voice (ぼんやりとした声) と訳され、「ぼんやりと」が先に訳出されている。

### C. 数・量など

(1) 食卓の上にプールの『失われた時を求めて』が積み上げられている。新品ではないが、読まれた形跡もない。全部で五冊、彼女は一冊を手にとってぱらぱらとページをめくる。(3-46)

All seven volumes of *In Search of Lost Time* were piled up on the dining table. They were not new copies, but they appeared to be unread. Aomame flipped through one.

All seven volumes (全七巻) と英訳は始まっている。最初に「積み上げられた本」を見た段階で、冊数がわかるとの考えに基づくと思われる。日英の冊数の違いは、代表的な日本語版と英語版の実際の冊数の違いを反映しているのであろう。

(2) 拳銃も重すぎると、今でもこぼしています。新しい拳銃はベレッタの九ミリ自動式で、スイッチひとつでセミオートマチックに切り替えることができます (1-111)

And he thought the new pistols were too heavy. He's still complaining about those. They're 9mm Beretta automatics. One click and you can switch them to semiautomatic.

原文最初の「拳銃」が the new pistols と訳され、ここで「新しい」が訳されている。

(3) やがて少女は天吾の左手を握っていた右手を放し、何も言わず、振り返ることもなく、足早に教室を出て行った。天吾は広い教室の中に一人だけで残された。(2-307)

At length she released the grip of her right hand on Tengo's left hand, and, without saying anything or looking back, she hurried from the big classroom. Tengo stood there all alone.

「広い」が「足早に教室を出て行った」のところで the big classroom と訳されている。

(4) 父親の頬には髭がうっすらと生えていた。二日か三日ぶんの髭だ。(3-233)

There was a two- to three-day growth of whiskers on his father's cheeks.

「二日か三日ぶんの」が先に訳出されている。

## 第九章

### 「滑り台に上がって考えごとをする」

『1 Q84』に次のような文がある。

(1) 滑り台に上って考えごとをするのが、この男は昔から好きなのかもしれない。(3-392)  
Maybe he had always liked to sit on top of slides when he needed to think.

英文を和訳すると、「考えごとをする必要があるときに、滑り台に上がることが以前から好きだったのかも知れない」となる。「滑り台に上る」と「考えごとをする」とを原文では一連の動作と捉えている。しかし、英訳ではこの二つの動作を一連の動作と捉えていない。そこで、上のように英訳されていると考えられる。以下、「～して、…する」の英訳について考える。

まず、日英とも「一連の動作」と捉えている例を見る。次例(2)の場合、「居酒屋に行った」のは「生ビールを飲む」ためである。そこで、英訳ではこの二つの動作が and でつながれている。

(2) 仕事の終わったあとで一度、三人で居酒屋に行って生ビールを飲んだことがある。(2-85)  
Once after work the three of them went to a bar and had a pint of beer together.

(3)(4)は類例である。

(3) 彼女は近くにある公衆電話に行って、その番号を押した。(2-105)  
She went to a nearby pay phone and dialed the number.

(4) 首都高速道路の非常階段を逆に上って、もとあった1984年の世界に戻れば、もう一度彼女に巡り合えるかもしれない。(3-222)  
If she could climb back up that emergency stairway on the Metropolitan Expressway No. 3 and return to the world of 1984, then maybe she would see her again.

しかし、次例(5)は、そうではない。

(5) ホテルの従業員が昼前に部屋の点検に行って、死体を発見した。(2-84)  
A hotel staff person had found the body when inspecting the room before noon.

英文を和訳すると、「ホテルの従業員が昼前に部屋の点検をしたとき、死体を発見した」となる。こ

の例の場合、「部屋の点検に行った」のは「死体を発見する」ためではない。「行ってみたら、死体を見つけた」のである。そこで、英訳のようになる。

以上見てきたように、「～して…する」が「…するために～する」という関係の場合は英訳においても and でつながれるが、その関係性がない場合は、連続した動作とは捉えられず、and でつながれない、と考えられる。

## 第十章

### 「私たち」と we

「私たち」の英訳はまず we と考えるのが通例である。しかし、「私たち」が we ではなく、例えば you and I などと訳される場合がある。

本章の目的は、どのような場合に we が用いられ、どのような場合に他の表現が用いられるかを考えることにある。英訳は該当部分だけに付した場合がある。

1. 「私たち」が同じ場所に一緒にいて、共同作業にかかわっている場合、英訳は we になる。

次の（１）において「私たち」が同じ場所にいて、「共有」しているのであるから英訳は we になる。

（１）「でも仮にそうだとしても、私たち二人が今ここでこうして共有しているものは、そこにはおそらく見いだせないことでしょう。あなたはあなたであって、あなたでしかない。とても感謝しています。言葉では表せないほど」(1-150)

“That may be true,” she said, “but I almost surely could never find anything to take the place of what we are sharing here and now. You are you and only you. I’m very grateful for that. More grateful than I can say.”

次例（２）の「僕と君」は、同じ場所にいて、話をしている二人を指す。そして「二人で『空気さなぎ』を書く」という「共同作業」をしたので「僕と君」の直訳（順番は逆であるが）の You and I ではなく We になっている。しかし、後に出てくる「僕ら」は you and I と訳されている。これは、共同作業として「新しく改変された世界」に入り込んだわけではないからと考えられる。これに関しては次項 2. 参照。

（２）「僕と君は二人で『空気さなぎ』を書き、それを出版した。共同作業をした。そしてその本はベストセラーになり、リトル・ピープルやらマザやらドウタについての情報が世界にばらまかれた。だからその結果、僕らはこの新しく改変された世界と一緒に入り込んでしまった。そういうこと？」

(2-453)

“We wrote Air Chrysalis and published it. It was a joint effort. Then the book became a bestseller, and information regarding the Little People and mazas and dohtas was revealed to the world. As a result of that, *you and I* together entered into this newly altered world. Is that what it means?

２．「私たち」が同じ場所にも、共同作業にかかわっていない場合、英訳は、たとえば *he and I* などになる。

次例（１）の「僕ら」は、同じ場所にて、話をしている二人を指すが、それぞれが個々に同じ作品を読んで、その感想を述べ合っている場面である。「共同作業」ではないので、*you and I* と訳されている。

（１）「才能のことまではわかりません。会ったばかりだから」と天吾は言った。「ただ彼女は僕らの見ていないものを、実際に見ているのかもしれない。何かしら特殊なものを持っているのかもしれない。そのあたりがどうもひっかかるんです」（1-100）

But she may actually be seeing things that *you and I* can't see.

次例（２）の「僕ら」も、同じ場所にて、話をしている二人を指すが「俺たち」が *you and I* と訳されている。「会社の設立」は小松と天吾の「共同作業」ではなく、小松が主導しているからと考えられる。

（２）「それからもうひとつ。俺たちは新しく会社を設立する」（1-359）

And there's one more thing. *You and I* have to set up a new company.

次例（３）の「私たち」も、同じ場所にて、話をしている二人を指すが、「それぞれに」とあるように「共同作業」ではないので *You and I* になる。英文のつづく部分に同じ人たちを指して *we* が用いられているが、これについては下の４．参照。

（３）「私たちはそれぞれに大切な人を理不尽なかたちで失い、深く傷ついています。その心の傷が癒えることはおそろくないでしょう。しかしいつまでも座して傷口を眺めているわけにはいきません。立ち上がって次の行動に移る必要があります。それも個別の復讐のためではなく、より広汎な正義のためにです。どうでしょう、よかったら私の仕事を手伝ってくれませんか。私は信頼の置ける有能な協力者を必要としています。秘密を分かち合い、使命を共にすることができる人を」（1-393）

*You and I* have both lost people who were important to us. We lost them in outrageous ways, and we are both deeply scarred from the experience.

3. 「私たち」が別の場所にいる場合英訳は、たとえば *he and I* などになる。

次例（１）で「私たち」が *he and I* と訳されている。これは、「青豆」が、これから会うことになっている未知の人物と「その人が滞在しているホテルの一室で二人きり」になれるかどうか尋ねている場面での発言である。日本語では、当事者のうちの一人が「自分」と「これから会う人物」を含め「私たち」と呼ぶことができる。しかし、英語ではこの二人を *we* では表すことはできないので、*he and I* と訳されていると考えられる。

（１）「私たちは部屋の中に二人きりになれるのですね」と青豆は尋ねた。(2-68)  
“So *he and I* can be alone together in his room?” Aomame asked.

次例（２）も、この場にはいない人「あの先生」と、自分（小松）についての話である。「俺たち」が *He and I* と訳されている。

（２）「そんなことはない。絶対にあり得ない。あの先生は何ひとつ忘れない人だよ。おそろしいまでに記憶力の良い人だし、俺たちはそのときずいぶんいろんな話をしたからね……。しかしまあそれはいい。あれはなかなか一筋縄ではいかんおっさんだ。それで、君の報告によれば、ふかえりちゃんを取り巻く事情はかなりややこしそうだな」(1-304)

His memory is so good it's almost frightening. *He and I* talked about all kinds of stuff, I'm sure he remembers....

4. 最初に *you and I* などと訳された人たちをもう一度指す場合は *we* になる。

（１）の場合、原文が「あなたと私」なので、それが *you and I* と訳されているが、この例では英訳が *we* で終わっている。付加疑問だから当然であるが、このことが（２）以下の例の理解につながる。

（１）「さあ、これであなたと私は、お互いの重要な秘密を握りあっていることになります。そうですね？」(1-389)

“So, then, *you and I* now have our hands on each other's deepest. secrets, don't we?”

次例（２）の場合、文中にあるように「二十年も会ったことがない」人と自分について「僕ら」が

用いられているが、その「僕ら」は *we* と訳されている。本来であれば、上で述べたように *we* にはならないはずであるが、これは、その前の「彼女も同じ歳だ」が *She and I are the same age* と訳されているからと考えられる。つまり、いったん *She and I* と訳されているので、そのあとは、*we* になるのである。

(2) 「もう二十年も会ったことがない。最後に会ったのは十歳のときだ。彼女も同じ歳だ。僕らは小学校の同じクラスにいた。いろんなやり方で調べてみたけれど、彼女の足取りを辿ることができない」 (2-355)

“I haven't seen her for twenty years. I was ten when I last saw her. *She and I* are the same age. We were in the same class in elementary school. I've tried different ways of finding her without any luck.”

次例 (3) の場合、最初の「私たち」は英訳では *he and I* となっているが、続く「天吾くんと私」は *us* と訳されている。これは、別の場所にいる二人の話なのでまず *he and I* の関係になって、それから *we* の関係になっているのである。

(3) 私たちは少しずつ距離を狭めているように見える。天吾くんと私は何らかの事情でこの世界に運び込まれ、大きな渦に引き寄せられるみたいに、お互いに向けて近づけられている。(2-375)  
It appears that *he and I* are narrowing the distance between *us* bit by bit. Circumstances carried *us* into this world and are bringing *us* closer together as though we are being drawn into a great whirlpool.

次例 (4) の場合、「僕や君」が *You and I* と訳されているので、そのあとの「僕ら」は「共同作業」ではないが *we* になっている。

(4) 「でも僕や君がお金を払う必要はない。僕らは何も受けとっていないから。とにかく鍵は開けなかったね？」 (3-67)

“*You and I* don't need to pay, because *we* don't receive anything from them. I hope you didn't unlock the door.”

## あとがき

前稿をお読みいただいた養老孟司先生より、私信で「(例示した文は) 英語の客観性と関係するようになる」「日本語は話者と心との関係がむしろ重くなる」という評をいただき、また、「全体を大きくまとめるよう」という励ましをいただいた。

本来であれば、ご指摘いただいた観点から、大きくまとめるべきところであるが、まだ各論に終始している。これは筆者の非力によるものであるが、それに向けて努力していく所存である。

また、第三章に関して同僚の阿部忍先生にお読みいただき、コメントをいただいた。ただし、文責がすべて筆者にあることは言うまでもない。

#### 引用文献

村上春樹『1Q84』（新潮社）2009

『ねじまき鳥クロニクル』（新潮社）1994~95

『スプートニクの恋人』（講談社）1999

『羊をめぐる冒険』（講談社）1982

『ノルウェイの森』（講談社）1987

『めくらやなぎと眠る女』（新潮社）2009

『世界の終りとハードボイルドワンダーランド』（新潮社）1985

『海辺のカフカ』（新潮社）2002

Haruki Murakami: *1Q84* (Vintage) 2011

: *Wind-up Bird Chronicle* (Harvill) 1997

: *Sputnik Sweetheart* (Harvill) 2001

: *A Wild Sheep Chase* (Harvill) 1989

: *Norwegian Wood* (Vintage) 2000

: *Hard-boiled Wonderland and the End of the World* (Harvill) 1991

: *Blind Willow, Sleeping Woman* (Vintage) 2006

: *Kafka on the Shore* (Knopf) 2005

#### 参考文献

塩濱久雄、なぜこう訳されているのか（1）『神戸山手大学紀要 14号』（pp139-149）2012